

海外研修生らが記念植樹

コクヨ三重工場



▲ヤマボウシを植える研修生ら

新入社員や海外研修生らの成長と活躍を願い、名張市西田原のコクヨ三重工場（高梨猛工場長）は今年から、環境整備ボランティア団体「グリーンボランティア森林づくり三重」と協力し、同市下比奈知の東山ふれあいの森に記念植樹を始めた。来年以降も継続的に実施していくという。

同工場は1993年に稼働開始し、スチールデスクなどを生産。2002年に桜とモミジ計約100本を市に寄贈して以降、同団体のメンバーとともに社員が家族ぐるみで東山ふれあいの森の整備や保全活動に取り組んできた。

11月14日朝、同工場に勤務する新入社員4人とインドネシアから

の研修生6人が、森の入口付近にサザンカとヤマボウシの木を植えたII写真。サザンカには「困難に打ち勝つ」、ヤマボウシには「友情・助け合う」などの花言葉があるそう。高梨工場長は「時間が経つてまたこの木を見に訪れ、木とともに自分たちの成長を実感してほしい」と言葉をかけた。

植樹を終えた新入社員たちは「この先、いろんな壁に当たることもあると思うが、地道に努力して仲間と助け合っていきたい」、研修生たちは「今は小さな木も、実習が終わって帰国する3年後にはきっと大きく育っていると思う。木の成長に負けないよう、一生懸命頑張りたい」と話していた。